実物を見てみよう

カタログで見るだけでは見えてこないことがある。長く使うことになる大切な机は，なるべく自分の目で見て選びたい。ショップやショールームなどに足を運び，じっくり楽しく選んでみよう。



コクヨショールーム

3フロアにわたる広いショールーム内では，ベジェデスクはもちろん，コクヨのオフィス家具，サプライ用品の数々を自由に見て回ることができるほか，オフィス環境についての相談にも応じている●所在地：東京都港区港南1-8-35（TEL:03-3450-5111）／JR線品川駅港南口より徒歩1分



ビクター・インテリア・ショールーム

OA NATURALをはじめとした，ビクターのワークスタジオのデスクなどが展示されている。コーディネートについての相談にも応じている●所在地：東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F（TEL:03-5684-8325）／地下鉄丸ノ内線本郷3丁目駅より徒歩5分

from

「パソコンのある部屋」

若い女性の部屋に置いてほしい

（有）サカイデザインアソシエイツ　酒井俊彦氏（プロダクトデザイナー）



酒井俊彦氏はLogitec製品のデザインなども手がけるプロダクトデザイナーだ。

彼にはパソコンはオフィスでの使用を前提にデザインされた，使っていないときには特に美しくないものであるとの認識がある。これをパーソナルな部屋に置くためのクッションとなるようなラックということで，今回かわいらしさを前面に出したラックをデザインしたという。

春をイメージして，新芽のような曲線や華やかな色を使った作品なので，ぜひ若い女性の部屋に置いてもらいたいとのことだ。

価格を抑えるために，構造はいたってシンプル。ラックといえばキャスターやマウステーブルがついているものが多いが，それほど頻繁に移動することのない「家具」として考えた。機能的な部分では，背面に配線用の穴があいているだけで十分ということで，可動部分はほとんどない。

このラックは，「パソコンの部屋展」で実物が見られるほか，次のURLで販売予定となっている。
http://www.kt.rim.or.jp/~d-net



曲線と色使いがかわいいラック。パソコンを置くだけでなく，ちょっとした書きものにも使えるよう，ラックとしては大きめに作られている／酒井氏によるCG

from

「パソコンのある部屋」

まず、パソコンを使うシーンの想定から

（株）APS設計室　半谷仁子氏（建築家）

建築家である半谷仁子氏の「パソコンの部屋展」での作品は，パソコンキッチンワゴンとパソコンドレッサーの2つだ。インタビューの時点では写真のミニチュア模型を見せていただきながら，お話を伺った。

クライアントがどんな生活をイメージしているのかということを知ってから設計に入るという半谷氏は，今回の作品作りにあたっても，まず，コンピュータがどのようなかたちで使われ，どのようにライフスタイルに作用するかから，考え始めたという。

コンピュータという新しいメディアが家庭に入ってくるようになったが，これをどう使えばもっと生き生きとした日常になるのかの答えはまだ出ていない。パソコンに限らず，それを利用してのライフスタイルが見えてきて，初めてツール自体やその容れ物の形が見えてくるものだが，パソコンはまだ家庭での使われ方のスタイル自体が見えていないツールといえる。

そこで，自身が主婦である半谷氏は，同じような女性が使うなら，家電のひとつであるテレビの位置に納まるような，料理をしたり化粧をしたりしながら気軽に情報にアクセスするツールとして，パソコンの使われるシーンを想定した。そんなパソコンが納まる容れ物がパソコンキッチンワゴンとパソコンドレッサーというわけだ。

ワゴンは台所でほかのことをしながら，立ち止まって使うのによいものということで，下段のトレイはそのまま抜き出して使うこともできる。ドレッサーは直径60cmの球を半分にしたような形で，ミラー部分を手前に倒すとモニタやキーボードが出てくる仕組である。

どちらも，えらそうなパソコンではなく，より生活になじんだツールの容れ物のイメージだ。肩肘はらず，パソコンながら族を楽しむではとの主張が感じられ，展示会で実物を見るのが楽しみである。

